

『隠れている自分を見つける』

ある販売会社の社長さんの話ですが、その社長さんは、傘下の6つの支社の販売実績を大幅に引き上げ、その会社を大きくすることに成功しました。その背景には、社長自らたいへん多くの人と交わりながら、限界を超えるほどの勇気を奮い起して困難な仕事に励んだそうです。そういう努力のなかで、社長が気づいたことがあるそうです。

「ありのままの自分を出さなければ何もできない」

そこで、自分の身に付いた鎧を剥ぎ取りながら、ありのままの自分と真剣に向き合ったそうです。そこで発見したのは、豊かな心を身に付け、あふれる情熱と強い思いで困難な環境さえ変えていこうとする、今までとはまったく違った自分だったといいます。

社長は「これは何にも勝る喜びでした」と、本当の自分との出会いを喜んでいました。自分のなかに隠れていた力を発見することができたのです。

もうひとり、画家であり詩人として活躍されている星野富弘の場合は、大ケガをして手足がまったく動かせなくなってから自分の絵や詩の才能に気づいたことが広く知られています。口に筆をくわえて絵を描き、詩をつくったのですが、手の麻痺と向き合うことによって隠れていた自分を発見したのです。

星野さんの名言です。

「自分の中に手つかずの鉱脈が残っている」

「我々には自分のまだ知らない能力が隠されている

夢としか思えないようなことを成し遂げる力がある」

「過去の苦しみが、後になって楽しく思い出せるように

人の心には仕掛けがしてあるようです」

「たおれても、その時もしひまだったら、

しばらく空をながめ、また起きあがるのさ」

「私がもう一歩がんばれば、もう少し余裕を持てれば、

自分の中の眠っている力がきっと顔を出してくる」

これらの名言から、自分にもまだまだ何かの力を発揮できるかもしれないという勇気をもらえるような気がします。

このほかにも、パラリンピックで活躍しているアスリートの人たちのなかに、「障害を抱えて絶望しかなかったが、競技にトライしてみて、そして、結果を残すことができて、

今となっては、自分の力に自分自身が驚いている」「これからの目標は東京でのパラリンピックでも優秀な成績を収めること」という外国人女性選手のことをテレビで報道されていました。この女性は、生まれつきの障害を抱え、医師からは成人するまで生存していることが難しいと診断されていたそうです。しかし、車イスの競技をすることになり、上半身を鍛え上げ、よい結果を出すことができ、自分の隠れていた能力を知ることができるようになったのです。今は限られた命であると言われたことをすっかり忘れてしまったといいます。

子どもたちにも、必ず隠れている自分があります。それをぜひ発見してもらいたいものです。それには、人との交わりのなかで、また、いろいろな経験や努力の積み重ねのなかで自分を知ることです。そして、素直に自分と向き合うことによって知らなかった自分が見えてくるのではないのでしょうか。

私たち大人は、どの子どもも無限の可能性を秘めていると信じ、そっと寄り添いながら「いつの日か努力は報われるよ」と子どもたちを支援していきたいものです。